

小松電機産業 (松江市)

元気カンパニー

高速で自動開閉する「二重」製シートシャッター「門番」、上下水道施設の遠隔監視、制御装置「やくも水神」の開発など新市場を開拓する。

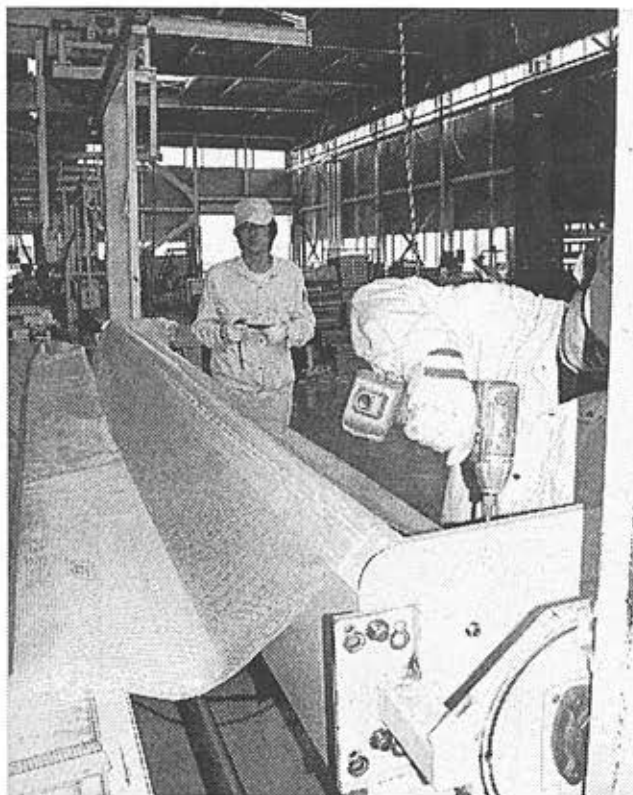
小松昭夫社長(58)は松江工業高校を卒業後、地元の農業機械メーカーに就職した。エンジニアとして耕運機のトラクタ設計などに携わったが、8年後に会社が倒産。これが事業を始めるきっかけになった。「親兄弟を養わなければならない。地方議員選で落選した父親の借金もあった。どうすればいいかわからなかったが、どうせ死ぬなら『ああ、おもしろかつ

た』と言って死にたい。やるべきことやりたいことを両立させようと思った」と振り返る。

八雲村の実家の納屋(10畳)を作業場に改造。10万円の元手と中古車1台で、家庭用の井戸用ポンプの修理業から始めた。転機となったのは85年の「門番」の開発だ。バブル経済で不足していた工場労働者を確保するため、防寒対策として開発を依頼された。工場の出入り口に取り付け、高速で自動開閉するようにした。職場の3K(追放運動や日本列島を縦断する高速道路の開通など、時代の風)に押しされた。総生産数は7万台を超え、シートシャッターの国内シェアは約6割。

その後も、電電公社の民営化に伴ってできるようになった一般電話回線によるデータ通信に着眼した。92年、パソコンによる上下水道の遠隔監視システム「やくも水神」を

シートシャッター「門番」の製造工場＝松江市乃木福富町で



開発。2年後には、水質汚濁の原因となる窒素やリンなどの処理装置を組み合わせ、「NEWやくも水神」を発売した。

会社メモ

従業員86人。資本金1億円。年商42億円。松江市の本社のほか、東京支社、大阪営業所、八雲事業所(八雲村)。経営理念は「おもしろ、おかしく、たのしく、ゆかいに」。



小松 昭夫
社長

時代先取りし市場開拓